

Makuhari's Memory

研修で学んだことを、今後どう活かしていくか

「職員研修の企画と実践」をテーマとした9日間の研修に参加するため、研修担当の職員31名が、全国から集結しました。

私にとって研修とは、「受講することによって、自分が今後どう行動していくべきかを考えるきっかけになる機会」と捉えています。

研修に限らず、学ぶことは素晴らしいことですが、学んだ内容を今後どう活かすのか、目標を立てて行動していくことが重要であると思っています。

そのために、研修を受講した職員が、どうすればそのように行動していくことに導いていけるか、研修担当者として何をすべきなのか、この研修を受講したことによって様々なヒントを得ることができ、たいへん有意義な9日間となりました。

また、各自治体の皆さんと情報交換を行ったことで、研修担当者が抱えている多くの課題を共通認識することができ、全受講生が連絡先を交換したことで、ネットワーク作りをすることもできました。

このネットワークを有効活用すべく、代表幹事

という立場を利用(?)し、各自治体の各種研修マニュアル等を、研修参加自治体で共有することに取り組むことができました。各自治体の皆様、ご協力いただきありがとうございました。

最後になりますが、実践的な指導をいただいた講師の皆様、課題演習で毎日お世話になったB班の皆様、全受講生の皆様、この研修を支援していただいた齊藤教授と越川主査、そしてこの研修に携わった全ての方に感謝いたします。



押味 順平

長野県長野市
総務部職員研修所係長
〈受講研修科目〉
職員研修の企画と実践
第35期第1組（令和3年度）

9日間を振り返って、監査、感謝！

令和4年1月17日から25日までの9日間、「監査事務②」を受講させていただきました。折しも、新型コロナウイルス感染症の第6波の真っ只中、期待と不安を抱えながらの入寮となりました。開講オリエンテーション時に担当教授の方から、当初45名が参加するところ、18名になったことを知らされました。さまざまな思いが交錯する中、研修生活が静かに幕を開けました。

2日目からは本格的な研修が始まり、監査の制度的なものから定期監査など実務的な内容まで、多岐にわたるカリキュラムを受講できました。監査1年目の私にとっては、身になる内容が多く、とても有意義なものとなりました。特に印象に残ったのは、「監査は役所の主治医」という言葉でした。監査は、事務上の間違い（病状）があれば、大事（大病）になる前に改善（治療）するのが役割という趣旨で、何か吹っ切れた思いでした。また、グループ演習では、時に楽しく時に真剣



に討議を重ねました。そして最終日、グループに分かれての成果発表を終え、研修の締めくくりとなりました。

今回、思うような交流ができなかった部分は少し残念ではありましたが、受講生全員が節度を保ち、楽しく過ごすことができました。このような大変な状況の中、お世話になった講師、関係者の方々、そして、ある講師の方曰く、「勇者」こと受講生メンバーのみなさん、本当にありがとうございました。

遠藤 崇広

愛知県大府市
監査委員事務局主幹
〈受講研修科目〉
監査事務
第35期第2組（令和3年度）